

学校名・名前

ICTに関して現在実践している学習活動＋今単元での取り組みの方向性

【共有ドライブの活用】

本学級では、Googleの共有ドライブを作成し活用している。そこでは、学習計画(学習の目標、ゴール、内容を示したシラバスのようなもの)を作成し、学習の予定を共有している。児童と1週間、1日、1時間の予定を共有することで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。

【自由進度学習への取り組み】

本学級では、自由進度学習を取り入れている。学習の目標、ゴールに向かって児童一人一人が自分のペースで学び方を選び学習を進めている。しかし、自分たちのペースで学び方を選び学習を進める経験が少ない児童にとって全てを任されるのは不安があると考えた。

そこで、本学級では、学習計画を活用して、これまで学習を児童に任せて進めてきた。学習計画とは、学習の目標やねらい、流れ、評価など示したシラバスのようなものである。この学習計画を活用することで、児童は、学習の見通しをもつことができ、自分たちのペースで学習を進められるようになると考えた。

学習計画は、共有ドライブを通じて児童と共有しているので、児童は、いつでも計画を見られるようになっている。児童に学習の学び方を4つ示した。「先生と学ぶ方法」「友達同士で学ぶ方法」「一人で静かに学ぶ方法」「ICTを活用し情報交換して学ぶ方法」これらの4つを児童が自分で選択することで、自分に合う方法で自ら学び、一人一人が学習の理解を高めることができると考えた。

【反転学習への取り組み】

反転学習とは、事前に自宅で予習し翌日の授業の内容を理解したり考えをまとめてから授業に参加する学習形態である。事前に自宅で学習し、理解したことをもとに話し合いや考えの交流を通して、考えを広げたり深めたりする時間充実させることができると考える。

そこで、本学級では、動画のタイプを3パターン考えた。

- ①予告編:何をどのように学ぶのか、ゴールはどこかを動画を通じて知らせることで、見通しをもつことをねらいとしている。
- ②解説編:問題の解き方を解説し、理解した上で授業に参加する。練習問題等に取り組む時間を多く設定する。
- ③課題提編:授業の内容について、解き方や考えを事前にまとめる。授業では、話し合いをもとに理解、考えを深めることをねらいとしている。

動画を見て、学習の見通しをもったり、自分の考えをもったりすることで、事前に学習内容をある程度理解して登校してくる。授業では、理解していることをもとに、さらに理解を高めるために自分のペースで練習問題に取り組んだり、自分の考えがはっきりした話し合いを通して、内容への理解の深まりや広がりを感じることができると考えた。

【今単元での取り組み】

「固有種が教えてくれること」では、資料と本文と対応させながら読み、資料の意味や効果を捉えるとともに、文章全体を俯瞰的に見て、筆者の論の進め方について考えさせるようにしたい。その学習で身に付けた観点を「書くこと」の学習にいかしていくようにする。自分の考えに合った統計資料を用いて、グラフや表などに対応させながら文章を書くことができるようにしていく。

第一次では、学習の見通しをもつことがねらいである。そこで、一斉学習の形態で学習を進めるようにする。全体で学習の見通しをもち、興味や感想を交流することを通して、自ら読み進めようとする意欲を高められるようにしたい。

第二次では、「固有種が教えてくれること」を読み、文章と資料のつながりや効果を捉え、筆者の考えや工夫について自分の考えをまとめることを通して、第三次の意見文を書くことにつなげていく。そこで、筆者の構成の工夫、資料と文とのつながりや効果を考える際には、自由進度学習を取り入れて学習を展開しようとする。自由進度にすることで児童が自分のペースで読み進めることができ、互いに学び合うことを通して、児童一人一人が筆者の考えや説明の工夫を捉えられるようにする。しかし、本学級の児童は、意見文、報告文などから筆者の考え、資料との関連、資料の効果などを読み取ることが苦手な児童が多い。また、書かれていることをそのまま抜き出し、理解していると思ってしまう傾向があり、内容を深めることができないでいる。そこで、自由進度を行うために、学習計画にどのようなことを読み取るのか、どのようなことが考えられるのか、読み取ることが児童が確認しながら進めることができるようにする。また、誰とどのように学ぶのか、自分の学びを高めるためにどのように学んだらよいのか考えさせたい。

第三次では、二次で身に付けたことをもとに、報告文を書いていく。自分の考えに合う統計資料を用いて、グラフや表などに対応させながら文章を書くことができるようにしていく。

なんのために・どのようにテクノロジーを取り入れてみたいか

（視点1 主体的・対話的な（個別最適・協働的）学びを目指した授業の工夫）

【共有ドライブを活用した自由進度学習と反転学習】

本学級では、学習計画を使って、自由進度学習や反転学習を行っている。学習計画に示された目標、学習のゴールを確認し、取り組む内容を示すことで、児童が自分のペースで学習を進めることができるようにしている。また、学習計画の中に事前学習動画という動画を児童に共有している。その動画を使って児童が学習を見通し、自ら進んで学習を進めるとともに、事前に家庭で自分の考えをまとめ話し合う時間を設けている。

【互いに学び合うポジショニングの活用】

本単元の学習では、第二次の筆者の考え、資料の効果などを読み、内容を捉えていく際には、自由進度学習を行っている。自由進度学習を行うことで、児童一人一人が自分のペースで学習に取り組めるようにしたい。しかし、本学級の児童は、読み取りが苦手な児童も多い。そこで、SKYMENUのポジショニングを使って自分の学習の進捗状況を共有できるようにし、互いに学び合いができるようにしていきたい。

単元名	学年
資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 固有種が教えてくれること	第5学年

自然環境を守るために コラム統計資料の読み方		
指導目標		関連する学習体験・既習内容
◎原因と結果など情報と情報の関係について理解することができる。(知(2)ア) ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 (思C(1)ウ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことにきづくことができる。(知(3)オ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア)		○見立てる/言葉の意味がわかること ・事例・理由や論の展開に着目して、要旨を捉える。 ○新聞を読もう ・書かれた目的や対象を踏まえて、知りたいことに合った新聞や記事を選んで読む。
評価基準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 ・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。	・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表わし方を工夫している。 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必	・粘り強く文章と図表などを結びつけて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

	要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりしている。	
学習活動の概要・指導計画		
第1次 1時間目	①単元名を確認し、学習の見通しをもつ。 ②扉のページを確認し、絵や題名から内容を予想した上で通読する。 ③初めて知ったことや興味をもったこと、疑問に思ったことを交流する。	
第2次 2時間目④～⑦(自由進度) (本時) 3時間目④～⑦(自由進度)	④文章構成を押さえて筆者の論の進め方を確認し、文章の大体を捉える。 ⑤文章と資料のつながりや筆者の論の進め方を捉え、要旨をまとめる。 ⑥筆者が資料を使った意図や効果を考える。 ⑦筆者の効果にふれながら、筆者の考えや説明の工夫について、自分の考えをまとめる。	
第2次 4時間目(自由進度)	⑧筆者の考えや説明の工夫について、考えたことをグループで伝え合う。 ⑨学校図書館などで、環境に関する図書を読み、内容や説明の工夫について感想を伝え合う。	
第3次 5時間目～9時間目	⑩環境問題について自分の考えを書くことを確かめる。 ⑪統計資料を集め、自分の考えをもつ。 ⑫「初め」「中」「終わり」で書くことを確認し、構成を考える。 ⑬グラフや表を用いて考えを書く。	
第4次 10時間目	⑭書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ⑮単元全体のふりかえりをする。	
活用するツール		授業準備(デバイス準備・アプリインストールなど)
☒ AI・チャットボット ☒ データ活用・ビジュアライゼーション ☒ PC・タブレット・スマートフォン ☒ その他:		・ポジショニング(進捗状況の共有) ・学習計画(共有ドライブを通して学習の見通しをもつ)
本単元で育成したい情報活用能力に関するルーブリック(視点2:本単元で育てたい情報活用能力とそれを見取るための評価の工夫) 情報活用能力の体系表例より		

身に付けさせたい情報活用能力	A	B	C
原因と結果など情報と情報との関係	原因と結果など情報と情報との関係について他者との関わりを通して理解している。	原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	情報と情報との関係について捉えている。
観点を決め、情報同士のつながりを見つけたり、調査や資料等から情報を収集しを用いて情報を整理する」考えるための技法「た簡易な表やグラフ等や習得した。	「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	「読むこと」において、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	「読むこと」において、文章全体の構成を捉えている。
情報や情報技術をよりよい生活や社会づくりに活かそうとする。	粘り強く文章と図表などを結びつけて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。	学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。	読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。
関連資料・参考URL等			

本時の展開(3/10)

目標:文章と資料をむすびつけたり、その効果を考えたりして、論の進め方を捉えることができる。

主な学習活動	○教師の支援 ◇評価	●ICTの活用 ◆ICT活用のねらい
0 事前学習動画を自宅で視聴する。		●共有ドライブを活用し、「学習計画」に事前学習動画を添付する。 ◆自宅で事前学習動画を視聴することで、学習の内容の見通しをもち、学習への意欲を高められるようにする。
1 単元全体の見通しを確認する。 2 自由進度学習で、筆者の論の進め方を捉え、自分の考えをまとめる。 ○「はじめ」「中」「終わり」を確かめて、筆者がどのように考えを述べているかを確かめる。 ○「中」の段落に見出しをつけて内容をおおまかに整理し、前半と後半に分ける。	○単元の見通し、計画を確認することで、どのように学習を進めるとよいのか児童が把握できるようにする。 ○筆者の考えが書かれていることがどの段落に書かれているのか確認することで、キーワードになる言葉に着目できるようにする。 ○文章を通して、筆者が一番伝えたかったことは何かを考えることで、文章の構成、論の進め方に興味をもてるようにする。 ○見出しをつけて、整理することで、「中」の内容を分かりやすく捉えられるようにすることで、「中」が筆者の主張とどのように結びついているのかを明らかにできるようにする。	●Google共有ドライブを活用した「学習計画」を活用する。 ◆学習の見通しがもてるようにするとともに、個人のめあてを共有することで、誰とどのように学ぶのかを児童が考えることができるようにする。 ●「学習計画」を活用して、「自由進度学習」を行う。 ◆児童が「学習計画」の内容を確認しながら自分のペースで学習を進める。誰とどのように学ぶのか、どこで学ぶのか、どのくらい学ぶのか自分で選択して学習を進めるようにする。 ●SKYMENU:「ポジショニング」活用して児童の学習の進捗状況を把握する。 ◆ポジショニングを使って児童の進捗状況を視覚的に把握しやすくする。友達の状況を知り、誰とどのように学ぶのか、誰に聞くとよいのか、互いに教え合い、学び合いができるようにする。

本時の展開(3/10)

目標:文章と資料をむすびつけたり、その効果を考えたりして、論の進め方を捉えることができる。

主な学習活動	○教師の支援 ◇評価	●ICTの活用 ◆ICT活用のねらい
○本文の構造や内容の理解できたことを踏まえて、要旨をまとめる。 ○用いられている資料を確認し、本文との対応箇所を考える。 ○資料を、必要度から捉え直し、資料の意味や価値を考える。 ○資料の効果について考えたことを自分のことばでまとめる。	○題名との関連性や筆者の主張がどこにどのように書かれているかを確認することで、文章の要旨をまとめることができるようにする。 ○要旨のまとめ方がわからない児童には、「筆者が一番言いたいことを」が書かれている段落を見付け、確認するように促し、そのことばを文章にしていくようにする。 ◇原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(知識・技能) ◇事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思考・判断・表現) ○資料と本文の対応を視覚的に確かめられるように、資料を掲示する。 ○必要度が高い資料を考えさせることによって読み手の立場から資料の価値を考えることができるようにする。 ○資料の効果について書き出すことができない児童には、教科書に示されたことばを使いながら書くように促す。 ◇目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(思考・判断・表現)	●ドキュメント、スライド、ノート:児童が何を使って記録するのか選択する。 ◆何を使って学習の記録をするのか、児童が選択できるようにする。自分に合う方法を選択して学ぶことができるようにする。

本時の展開(3/10)

目標:文章と資料をむすびつけたり、その効果を考えたりして、論の進め方を捉えることができる。

主な学習活動	○教師の支援 ◇評価	●ICTの活用 ◆ICT活用のねらい
3 「固有種が教えてくれること」に対する自分の考えをもつ。 4 本時の学習のふりかえりをする。	◇粘り強く文章と図表などを結びつけて読み、学習の見通しを持って論の進め方を考えようとしている。 (主体的に取り組む態度) ○これまでの学習で考えてきたことやまとめた要旨をもとに、説明文に対する自分の考えをもてるようにする。 ◇筆者の考えや説明の工夫に対して、自分の考えをまとめることができる。 (思考・判断・表現) ○個人のめあてに対して、本時の取り組みがどうだったのか、自分自身がどのような高まりがあったのかふりかえりをする。	●学習計画:学習計画にふりかえりを共有する。 ◆学習計画にふりかえりを共有することで、書くことが苦手な児童にとって参考にできるようにする。また、めあて、ふりかえりを共有することで、互いの学びの様子を捉えることができるようにする。